

【新エネルギー分野(バイオマス)】

仮訳

フロリダプロジェクトで米国初となる商業規模による
セルロース系エタノール製造を開始(米国)

【2013年7月31日 ワシントン】本日、エネルギー省(Department of Energy: DOE)は、フロリダ州 Vero Beach の INEOS Bio 社の Indian River BioEnergy Center における、米国初となる商業規模のセルロース系エタノール製造を認可した。INEOS Bio 社と New Planet Energy 社の合弁事業(JV)を通して設立されたこの事業では、1990年代に開始され DOE の支援によって開発された、木くずや草木の切り落とし、その他の廃棄物を輸送用燃料および熱・電力用エネルギーに変換するガス化と発酵技術を組み合わせた独自のハイブリッド技術を利用する。

「米国の豊富なエネルギー源全ての責任ある開発の可能性を引き出すことは、私たちの「包括的なエネルギー戦略(all-of-the-above energy strategy)」の重要な責務です。」と DOE 長官 である Ernest Moniz 氏は述べ、こう続ける。「本日の商業規模のセルロース系エタノール製造開始の発表は、成長するグローバル産業における米国のリーダーシップの重要な指標となるものです。また、米国のエネルギーポートフォリオの多様化を支援し、CO₂の排出を削減し、そして未来のエネルギーブレイクスルーをもたらす革新的な技術に対する初期段階での投資の必要性を実証するものです。」

オバマ大統領の「気候変動に関する行動計画(The President's Climate Action Plan)」で明確化されているように、バイオ燃料は米国のエネルギー安全保障の強化、地域経済成長の促進、輸送部門における温暖化ガス排出削減において重要な役割を担っている。DOE によるこの分野における研究開発活動は、革新的で低コストのバイオ燃料技術実用化の支援、最新の研究結果の検証、そして商業生産の加速を支援している。

この度商業運転を開始する Indian River County BioEnergy Center (Center)では、植物性廃棄物、庭ごみ、一般廃棄物(都市固形廃棄物)からセルロース系エタノールを年間 8 百万ガロン生産するとともに、同施設全体の稼働と地域コミュニティに余剰電力を供給するのに十分な電力容量である 6 メガワットのクリーンな再生可能電力を供給する。

燃料、熱及び電力を生産する本事業のガス化—発酵技術は、DOE の 15 年に渡る 5 百万ドルの資金提供により支援された、アーカンザス大学の研究事業に端を発している。DOE による初期段階の支援において、2008 年の INEOS Bio 社によるコアとなる知的所有権の購入とともに、本技術に関する数多くの特許の取得を支援した。

INEOS Bio 社と New Planet Energy 社の JV は、Indian River BioEnergy Center の設計、建設、試運転および本格稼働のために 2009 年に 5 千万ドルの DOE 補助金を獲得した。事業費総計 1 億 3 千万ドルが投じられた本 Center 開発では、建設、エンジニアリングおよび製造において 400 人を超える直接雇用を生み出し、現在では 65 人の常勤労働者を雇用している。本 Center の設備の 90%以上が、米国 10 州の米国メーカーから調達されている。この Vero Beach での事業は、全米の他の先進的バイオ燃料事業とともに、INEOS Bio 社の将来の燃料生産施設の情報提供を支援することで、革新的な転換技術を利用した商業規模のセルロース系エタノール生産の試験台の役割を果たすだろう。

米国のバイオ燃料産業成長に貢献する DOE の活動に関する詳細は www.bioenergy.energy.gov をご参照ください。

翻訳：NEDO（担当 広報部 松田 典子）

出典：本資料は、米国エネルギー省（Department of Energy: DOE）の以下の記事を翻訳したものである。

“Florida Project Produces Nation’s First Cellulosic Ethanol at Commercial-Scale”
(<http://energy.gov/articles/florida-project-produces-nation-s-first-cellulosic-ethanol-commercial-scale-0>)